

音楽研究会 部会記録

日時 平成29年10月4日(水) 15:30~16:45

部会名 音楽づくり 主任 吉田 百合子

参加数 18人 司会 吉田 百合子 記録 西 久美子

研究部 研究テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業のあり方

部会テーマ：一人ひとりの発想を生かし、思いや意図をもって音楽をつくる活動

- 基礎研究 「和音の音で旋律づくり」(6年生)
- ・思いに合ったリズムの工夫ができるよう、リズムカードを並べかえながら旋律をつくった。
 - ・つくった旋律の音の動きが分かるように、音の高さも視覚化できるワークシートを用意したい。
- 実践提案 「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」
～日本の音階を使って、秋の葉っぱを表す音楽をつくろう～ 6年生
- ・先月の検討事項であった、旋律を重ねることを実践し、リコーダー同士やリコーダーとグロッケン異なる音色を重ねることの成果と課題を考えたい。
 - ・「春の海」の鑑賞で、箏の旋律の動きから何を表現しているのかを考えたことをもとに、自分の旋律の音の動きにもこだわりながら旋律をつくることができた。
 - ・個で旋律をつくる活動と、グループでまとまりのある音楽をつくる活動が離れてしまった。(協議)
 - ・モデル演奏を8小節全部提示せずに途中で終わらせたことで、子どもたちは発想を広げて終わり方を工夫できたのではないか。
 - ・「春の海」での鑑賞は、旋律線の動きだけでなく、構成にも生かすことができたのではないか。鑑賞のしかたで音楽づくりも変わってくる。第2時の初めにもう一度「春の海」を聴かせることも大切。
 - ・
- 12月研究授業について
- ・「春の海」と同じA-B-A構成にしたい。第1時では、自分の旋律をつくり、それをつなげてはじめとおわりの部分をつくるところまでをねらう。
 - ・第2時では、Bの部分を即興的に作り、音の動きを意識しながらリコーダーと箏をつなげたり重ねたりして表現する。(協議)
 - ・「春の海」の鑑賞でどこまでとらえさせるか。箏は細かい音が表現できる、尺八は音を伸ばすことができる特徴をいかして音楽をつくるかどうかで、表現が変わってくる。
 - ・子どもたちは第1時でつくった自分の旋律に思いがある。第2時でそれがいかされない。
 - ・自由につくるのは難しい。前時につくった旋律のうち1小節を取り出して、それを用いるなどしないと、モチーフが何もないところで即興的な活動はできないのではないか。
 - ⇒・第1時では、グループ内でリコーダーと箏の担当を決めて、2小節ずつ自分の旋律をつくる。
 - ・第2時では、「春の海」の真ん中の旋律の部分を生かし、箏とリコーダーの旋律を問いと答えの形にすることをとりあげ、前時につくった旋律の組み合わせ方を工夫する。
 - ・前時でつくった旋律をそのまま使ったり、1小節だけを切り取ったり、ずらして重ねたりするなど、3種類のモデル演奏を聴かせ、子どもたちが表現を選べるようにする。
 - ・提案通りA-B-A構成にし、Aはリコーダーの旋律をつなげ、本時ではBの部分をつくる活動をする。